

## 2020年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2020年2月13日

上場会社名 日本工営株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 1954 URL https://www.n-koei.co.jp  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 有元 龍一  
 問合せ先責任者(役職名) 経理部長 (氏名) 青木 哲実 (TEL) 03-3238-8040  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年6月期第2四半期の連結業績(2019年7月1日~2019年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年6月期第2四半期	49,148	25.6	△1,427	—	△1,185	—	△910	—
2019年6月期第2四半期	39,146	25.3	△2,817	—	△2,901	—	△2,331	—

(注) 包括利益 2020年6月期第2四半期 △160百万円(—%) 2019年6月期第2四半期 △3,472百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年6月期第2四半期	△59.89	—
2019年6月期第2四半期	△149.66	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年6月期第2四半期	129,372	57,031	43.2
2019年6月期	113,175	60,205	52.2

(参考) 自己資本 2020年6月期第2四半期 55,880百万円 2019年6月期 59,090百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年6月期	—	—	—	75.00	75.00
2020年6月期	—	—	—	—	—
2020年6月期(予想)	—	—	—	100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年6月期の連結業績予想(2019年7月1日~2020年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
【日本基準】 通期	127,700	17.6	5,800	13.5	6,200	11.0	3,600	8.5	236.72

  

	売上収益		営業利益		税引前利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
【IFRS】 通期	127,700	—	6,700	—	7,000	—	4,500	—	295.91

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2020年6月期期末決算より国際財務報告基準(以下、IFRS)を任意適用とすることとしたため、日本基準に基づく連結業績予想に加え、IFRSに基づく試算値も開示いたします。なお、日本基準を適用している2019年6月期に対する増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 一 、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年6月期2Q	15,933,058株	2019年6月期	15,919,544株
② 期末自己株式数	2020年6月期2Q	917,698株	2019年6月期	235,268株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年6月期2Q	15,207,546株	2019年6月期2Q	15,581,280株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページの「連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、2020年3月2日に投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。説明会資料については、開催後当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10
3. その他	11
(1) 生産、受注及び販売の状況	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年7月1日から2019年12月31日まで)におけるわが国経済は、輸出を中心に弱さが続いているものの、企業収益は高い水準で推移し、個人消費の持ち直しや雇用情勢の改善もあり、緩やかに回復しております。一方、海外経済についても緩やかに回復しているものの、米中通商問題を巡る動向や中東情勢の不安定化、当社の主要営業基盤の一つである英国におけるEU離脱および金融資本市場の変動の影響等に引続き留意する必要があります。

当社グループを取り巻く経営環境については、コンサルタント国内事業では公共事業における国土強靱化やインフラ老朽化対策、コンサルタント海外事業ではわが国政府による質の高いインフラシステム輸出戦略が推進されており、電力エンジニアリング事業では電力流通設備の更新需要、都市空間事業ではアジア各国における都市化の進展に伴う建築需要、エネルギー事業では低炭素化や分散電源化に伴う再生可能エネルギーの需要がそれぞれ堅調に推移いたしました。

このような状況の下で、当社グループは、中期経営計画NK-Innovation 2021(2018年7月から2021年6月まで)に基づき、「グローバルなコンサルティング&エンジニアリングファームへと進化を続ける」を基本方針として、「鉄道分野の生産体制強化」「都市空間事業の海外展開」「エネルギー事業の確立」「コンサルティング事業での事業創生と海外展開」「電力エンジニアリング事業での製品開発と海外展開」の5つの事業戦略と、これらを実現するための全社共通施策である、「ワンストップ営業体制の構築」「技術と人財への投資」「グループガバナンスの強化」を推進してまいりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高は前年同期比22.4%増の58,395百万円、売上高は良好な事業環境に加え、当社売上高計上基準である進行基準の適用範囲拡大もあり、前年同期比25.6%増の49,148百万円、営業損失は前年同期比49.3%減の1,427百万円、経常損失は前年同期比59.1%減の1,185百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期比60.9%減の910百万円となりました。

また、当第2四半期連結累計期間の売上高49,148百万円は、通期予想売上高127,700百万円に対して38.5%(前年同期は34.0%)の達成率となりました。これは当社グループの営業形態として、下期に進捗する業務の割合が大きく、売上高計上に季節変動が生じるためです。一方で、販売費及び一般管理費などの費用は年間を通じほぼ均等に発生するため、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに損失計上となりました。

当社グループのセグメント別の業績は次のとおりです。

## [コンサルタント国内事業]

コンサルタント国内事業では、受注・生産体制の再構築による西日本地域の受注拡大や品質の確保・向上、働き方改革など経営基盤のさらなる強化や効率的な事業マネジメントの推進に加え、主にコンサルタント海外事業や中央研究所との連携によるグローバル戦略の推進支援、インフラの価値向上のためのマネジメント技術を核とした新事業創出に取り組みました。

以上の結果、受注高は前年同期比4.4%増の24,495百万円、売上高は前年同期比36.9%増の19,267百万円となり、営業損失は前年同期比32.7%減の1,338百万円、経常損失は前年同期比31.9%減の1,354百万円となりました。

## [コンサルタント海外事業]

コンサルタント海外事業では、主に鉄道事業における要員の確保・育成やプロジェクト・マネジメント能力の向上による生産体制の強化、収益管理・リスク管理・安全管理の徹底を図りました。また、PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ:官民連携)事業、民間事業に積極的に取り組みました。

以上の結果、受注高は前年同期比52.4%増の17,627百万円、売上高は前年同期比12.5%増の12,025百万円となり、営業利益は173百万円(前年同期は営業損失72百万円)、経常利益は192百万円(前年同期は経常損失87百万円)となりました。

## [電力エンジニアリング事業]

電力エンジニアリング事業では、機電コンサルタント事業におけるグローバル展開を見据えた交通・運輸、維持管理など新領域への拡大の積極的な推進、エネルギー関連事業や維持管理ビジネスにおけるグループ連携強化、世界標準仕様の製品開発・技術開発の推進とともに、引き続き徹底したコストダウンによる価格競争力の向上と営業力強化に取り組みました。

以上の結果、受注高は前年同期比57.2%増の7,182百万円、売上高は前年同期比12.9%増の7,583百万円となり、営業利益は前年同期比19.4%増の620百万円、経常利益は前年同期比19.0%増の580百万円となりました。

#### [都市空間事業]

都市空間事業では、英国市場の変化への対応に加え、シンガポールを拠点としたグループ内協業によりアジア市場への事業拡大、英連邦諸国市場への参入に取り組みました。

以上の結果に加え、前期当社グループ入りしたQUADRANGLE ARCHITECTS LIMITEDの業績寄与もあり、受注高は前年同期比14.8%増の8,984百万円、売上高は前年同期比32.6%増の8,963百万円となり、営業利益は504百万円（前年同期は営業損失21百万円）、経常利益は343百万円（前年同期は経常損失21百万円）となりました。

#### [エネルギー事業]

エネルギー事業では、再生可能エネルギーなどの発電事業の収益向上および民間資金によるPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）事業を含む新規案件の形成、エネルギーマネジメント事業における欧州を中心とした再生可能エネルギー・蓄電池EPC（エンジニアリング・プロキュアメント・コンストラクション）事業での実績の蓄積およびリソースアグリゲータ（エネルギー事業者と需要家の双方に関わる制御・管理などにおける中核的な役割を担う事業者）・VPP（バーチャル・パワー・プラント：仮想発電所）事業の推進に取り組みました。

以上の結果、受注高は前年同期比75.1%減の56百万円、売上高は前年同期比94.7%増の710百万円となりましたが、海外エネルギーマネジメント事業において開発費用が先行したことから、営業損失は前年同期比54.9%増の175百万円となり、一方で主として持分法投資損失の改善により経常損失は前年同期比7.9%減の113百万円となりました。

#### [不動産賃貸事業]

不動産賃貸事業の売上高は前年同期比0.3%減の216百万円となりました。営業利益は前年同期比0.4%減の203百万円となりましたが、経常利益は前年同期比0.2%減の203百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産は129,372百万円となり、前連結会計年度末と比較して16,197百万円の増加となりました。

資産の部では、流動資産は63,487百万円となり、前連結会計年度末と比較して11,040百万円の増加となりました。これは、仕掛品1,189百万円の減少等があった一方、受取手形及び売掛金11,828百万円の増加等があったことが主な要因です。

固定資産は65,885百万円となり、前連結会計年度末と比較して5,156百万円の増加となりました。これは、在外子会社においてIFRS第16号を適用した影響により有形固定資産のその他に含まれるリース資産の3,915百万円の増加等があったことが主な要因です。

負債の部では、流動負債は46,076百万円となり、前連結会計年度末と比較して17,993百万円の増加となりました。これは、支払手形及び買掛金850百万円および未払法人税等788百万円の減少等があった一方、短期借入金21,000百万円の増加等があったことが主な要因です。

固定負債は、26,265百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,378百万円の増加となりました。これは、長期借入金1,290百万円の減少等があった一方、在外子会社においてIFRS第16号を適用した影響により固定負債のその他に含まれる長期リース債務3,291百万円の増加等があったことが主な要因です。

純資産の部は、57,031百万円となり、前連結会計年度末と比較して3,174百万円の減少となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失910百万円、配当金の支払い1,193百万円、自己株式の増加1,800百万円等が主な要因です。

以上の結果、自己資本比率は43.2%となり前連結会計年度末と比較して9.0ポイント低下しました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年6月期の連結業績予想につきましては、2019年8月13日に公表した「2019年6月期決算短信」の業績予想から変更ありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,147	13,107
受取手形及び売掛金	29,938	41,767
仕掛品	5,709	4,520
その他	3,855	4,379
貸倒引当金	△203	△286
流動資産合計	52,446	63,487
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,421	5,258
土地	16,035	16,035
その他(純額)	8,425	12,866
有形固定資産合計	29,882	34,159
無形固定資産		
のれん	8,193	8,230
その他	5,307	5,198
無形固定資産合計	13,501	13,429
投資その他の資産		
その他	17,514	18,453
貸倒引当金	△169	△156
投資その他の資産合計	17,345	18,296
固定資産合計	60,728	65,885
資産合計	113,175	129,372
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,037	4,186
短期借入金	-	21,000
1年内返済予定の長期借入金	2,082	2,296
未払法人税等	1,137	349
前受金	6,687	6,493
賞与引当金	1,972	1,660
役員賞与引当金	91	-
工事損失引当金	119	118
その他	10,953	9,971
流動負債合計	28,082	46,076
固定負債		
長期借入金	17,639	16,349
役員退職慰労引当金	30	17
環境対策引当金	34	34
退職給付に係る負債	3,817	3,850
その他	3,364	6,013
固定負債合計	24,886	26,265
負債合計	52,969	72,341

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,437	7,458
資本剰余金	6,488	6,509
利益剰余金	47,864	45,699
自己株式	△787	△2,587
株主資本合計	61,003	57,080
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	456	540
為替換算調整勘定	△3,063	△2,450
退職給付に係る調整累計額	693	709
その他の包括利益累計額合計	△1,913	△1,200
非支配株主持分	1,115	1,151
純資産合計	60,205	57,031
負債純資産合計	113,175	129,372

## (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年12月31日)
売上高	39,146	49,148
売上原価	28,930	36,447
売上総利益	10,215	12,700
販売費及び一般管理費	13,033	14,127
営業損失(△)	△2,817	△1,427
営業外収益		
受取利息	129	111
受取配当金	87	62
投資有価証券売却益	-	186
デリバティブ運用益	75	148
その他	143	135
営業外収益合計	435	645
営業外費用		
支払利息	124	217
持分法による投資損失	106	18
為替差損	5	124
その他	283	43
営業外費用合計	519	403
経常損失(△)	△2,901	△1,185
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,901	△1,185
法人税、住民税及び事業税	491	521
法人税等調整額	△1,052	△811
法人税等合計	△560	△290
四半期純損失(△)	△2,340	△895
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,331	△910
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△8	15
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△625	84
為替換算調整勘定	△474	602
退職給付に係る調整額	△36	15
持分法適用会社に対する持分相当額	4	31
その他の包括利益合計	△1,131	734
四半期包括利益	△3,472	△160
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,463	△197
非支配株主に係る四半期包括利益	△8	37



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,901	△1,185
減価償却費	779	1,135
のれん償却額	230	278
投資有価証券売却損益(△は益)	16	△186
持分法による投資損益(△は益)	106	18
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△18	69
賞与引当金の増減額(△は減少)	△431	△307
工事損失引当金の増減額(△は減少)	17	△0
受取利息及び受取配当金	△216	△173
デリバティブ運用損益(△は益)	△75	△148
売上債権の増減額(△は増加)	△5,140	△11,635
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,261	1,191
仕入債務の増減額(△は減少)	△426	△867
未払金の増減額(△は減少)	△477	△330
前受金の増減額(△は減少)	1,529	△202
未収又は未払消費税等の増減額	△912	△1,841
その他	△572	72
小計	△12,755	△14,114
利息及び配当金の受取額	130	164
利息の支払額	△120	△223
法人税等の支払額	△1,070	△1,282
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△13,816</b>	<b>△15,457</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(△は増加)	601	△208
有形固定資産の取得による支出	△796	△849
投資有価証券の売却による収入	555	724
関係会社株式の取得による支出	—	△241
貸付けによる支出	△416	△660
その他	△253	△216
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△310</b>	<b>△1,451</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	17,000	21,000
長期借入金の返済による支出	△1,367	△1,270
リース債務の返済による支出	△13	△360
自己株式の売却による収入	213	201
自己株式の取得による支出	△5	△2,001
配当金の支払額	△1,186	△1,214
その他	△3	△2
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>14,636</b>	<b>16,352</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△173	292
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	335	△263
現金及び現金同等物の期首残高	15,233	12,663
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,569	12,399

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

譲渡制限付株式報酬の発行

当社は、2019年9月26日開催の臨時取締役会決議に基づき、取締役に対する譲渡制限付株式報酬として2019年10月25日付で、新株式の発行を行い、当第2四半期連結累計期間において、資本金が21百万円、資本準備金が21百万円それぞれ増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が7,458百万円、資本剰余金が6,509百万円となっております。

自己株式の取得

当社は、2019年8月13日開催の取締役会決議において決議した、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式取得について、以下のとおり実施いたしました。なお、2019年11月22日をもちまして、上記取締役会決議に基づく自己株式の取得は終了しております。

- ・取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- ・取得した株式の総数 : 748,100株
- ・株式の取得価額の総額 : 1,999,757,700円
- ・取得期間 : 2019年8月14日～2019年11月22日
- ・取得方法 : 東京証券取引所における市場買付け

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(原価差異の繰延処理)

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期末日までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動負債（その他）として繰り延べております。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

国際財務報告基準（IFRS）を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」（以下「IFRS第16号」という。）を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産および負債として計上することとしました。

IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に計上しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の「有形固定資産」が3,897百万円増加し、流動負債の「その他」が720百万円および固定負債の「その他」が3,264百万円増加しております。当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響および利益剰余金の当期首残高に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	コンサル タント 国内事業	コンサル タント 海外事業	電力エン 지니어リ ング事業	都市空間 事業	エネルギ ー事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	14,071	10,685	6,718	6,761	364	217	38,819	326	39,146
セグメント間の内部 売上高又は振替高	373	18	136	32	—	82	643	444	1,088
計	14,445	10,704	6,855	6,793	364	300	39,463	771	40,234
セグメント利益 又は損失 (△)	△1,987	△87	487	△21	△123	204	△1,527	△1,385	△2,912

(注) 「その他」の区分は収益を稼得していない、又は付随的な収益を稼得するに過ぎない構成単位のものであります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△1,527
「その他」の区分の損失 (△)	△1,385
セグメント間取引消去	11
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常損失 (△)	△2,901

当第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	コンサル タント 国内事業	コンサル タント 海外事業	電力エン 지니어リ ング事業	都市空間 事業	エネルギ ー事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	19,267	12,025	7,583	8,963	710	216	48,767	380	49,148
セグメント間の内部 売上高又は振替高	205	23	274	77	—	82	663	441	1,105
計	19,473	12,048	7,858	9,041	710	298	49,430	822	50,253
セグメント利益 又は損失(△)	△1,354	192	580	343	△113	203	△148	△1,011	△1,159

(注) 「その他」の区分は収益を稼得していない、又は付随的な収益を稼得するに過ぎない構成単位のものであります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△148
「その他」の区分の損失(△)	△1,011
セグメント間取引消去	△26
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常損失(△)	△1,185

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 3. その他

## (1) 生産、受注及び販売の状況

期 別 区 分		前年同四半期 2019年6月期 第2四半期連結累計期間		当四半期 2020年6月期 第2四半期連結累計期間		(参考) 前期 (2019年6月期)	
		金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
受注高	コンサルタント国内事業	23,471	49.2	24,495	41.9	52,855	44.7
	コンサルタント海外事業	11,569	24.3	17,627	30.2	(注1) 28,482	24.1
	電力エンジニアリング事業	4,568	9.5	7,182	12.3	15,411	13.1
	都市空間事業	7,824	16.4	8,984	15.4	(注1) 20,510	17.4
	エネルギー事業	225	0.5	56	0.1	723	0.6
	不動産賃貸事業	—	—	—	—	—	—
	その他	48	0.1	48	0.1	100	0.1
	合計	47,707	100.0	58,395	100.0	118,085	100.0
売上高1	コンサルタント国内事業	14,714	37.6	20,296	41.3	52,183	48.1
	コンサルタント海外事業	11,472	29.3	12,868	26.2	26,424	24.3
	電力エンジニアリング事業	5,638	14.4	6,187	12.6	13,441	12.4
	都市空間事業	6,748	17.2	8,856	18.0	15,337	14.1
	エネルギー事業	310	0.8	670	1.4	641	0.6
	不動産賃貸事業	217	0.6	216	0.4	439	0.4
	その他	45	0.1	51	0.1	120	0.1
	合計	39,146	100.0	49,148	100.0	108,589	100.0
売上高2	コンサルタント国内事業	14,071	35.9	19,267	39.3	49,593	45.7
	コンサルタント海外事業	10,685	27.3	12,025	24.5	24,928	23.0
	電力エンジニアリング事業	6,718	17.2	7,583	15.4	16,531	15.2
	都市空間事業	6,761	17.3	8,963	18.2	15,359	14.1
	エネルギー事業	364	0.9	710	1.4	719	0.7
	不動産賃貸事業	217	0.6	216	0.4	439	0.4
	その他	326	0.8	380	0.8	1,016	0.9
	合計	39,146	100.0	49,148	100.0	108,589	100.0

期 別 区 分		前年同四半期 2019年6月期 第2四半期連結会計期間末		当四半期 2020年6月期 第2四半期連結会計期間末		(参考) 前期 (2019年6月期)	
		金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
為替影響額	コンサルタント国内事業	—	—	—	—	—	—
	コンサルタント海外事業	25	—	398	—	△563	—
	電力エンジニアリング事業	—	—	—	—	—	—
	都市空間事業	△422	—	758	—	△982	—
	エネルギー事業	—	—	19	—	—	—
	不動産賃貸事業	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—
	合計	△396	—	1,175	—	△1,545	—
受注残高	コンサルタント国内事業	39,835	30.0	35,949	25.0	31,750	23.9
	コンサルタント海外事業	66,467	50.1	72,997	50.9	67,840	51.1
	電力エンジニアリング事業	11,964	9.0	15,999	11.1	15,004	11.3
	都市空間事業	14,142	10.7	18,565	12.9	17,679	13.3
	エネルギー事業	196	0.2	133	0.1	522	0.4
	不動産賃貸事業	—	—	—	—	—	—
	その他	27	0.0	2	0.0	5	0.0
	合計	132,635	100.0	143,647	100.0	132,801	100.0

(注) 1. 前連結会計年度より連結子会社としたNIPPON KOEI MOZAMBIQUE, LIMITADAならびに(株)黒川紀章建築都市設計事務所およびQUADRANGLE ARCHITECTS LIMITEDの連結開始時の受注残高を含めております。

2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3. 上記の金額は外部顧客に対するもので、セグメント間の内部取引および振替高は含まれておりません。

4. 売上高1 は受注セグメント別、売上高2 は業務実施セグメント別に集計しております。